

東京医科大対策

英語

1. 発音：アクセント
2. 文法・語い：空所補充
3. 文法・語い：語句整序
4. 読解「記憶と忘却」：空所補充
5. 読解「日米の健康保険制度の現状」：内容真偽

数学

1. 小問 2 題：曲線と直線で囲まれた部分の面積、ベクトルと微分
2. 小問 2 題：相加・相乗平均の関係、三角方程式
3. ベクトル：平面ベクトル、2 次関数の最小値
4. 積分法：面積と極限、不等式を満たす最小の自然数

化学

1. 総合：正誤問題－原子の構造、濃度、溶解度、気体の法則、反応速度と活性化エネルギー、アミノ酸、糖類、合成樹脂の性質
2. 無機・理論：ソルベー法
3. 無機・理論：酸化還元反応、酸化数、酸化還元滴定
4. 理論：ハーバー法と化学平衡、結合エネルギー、pH
5. 有機・理論：芳香族化合物の性質と反応

物理

1. 原子：ブラッグの条件
2. 力学：台上を滑る物体
3. 波動：ドップラー効果
4. 熱力学：気体の状態変化の循環過程
5. 電磁気：回転する導体棒に生じる誘導起電力

生物

1. 総合：真核細胞の構造と機能、生物の進化、胎児のヘモグロビン、遺伝子操作、水界の生物群集
2. タンパク質と生物体：骨格筋の構造とその収縮
3. 総合：赤血球の凝縮、コドン、ヒトの遺伝とハーディ・ワインベルグの法則
4. 生殖・発生：線虫の細胞系譜とアポトーシス

試験日程

区分	募集人員	出願期間	1 次試験日	1 次合格発表日	2 次試験日	2 次合格発表日
一般	95	1/10～ 1/26	2/4	2/8	2/12	2/18
センター利用	20	12/19～ 1/13	1/14・15 センター試験	2/8	2/12	2/18

傾向と対策

東京医科大医学部対策 英語

発音・アクセント、文法・語い、読解問題など総合力をみる出題内容。発音とアクセントは 1 年おきに口語に出題されています。2008 年度以降は会話分は出題されていません。読解問題は英文の量が多く、内容真偽は選択肢の数も多いため、難度が高いです。また、文章中の空所補充にも難しいものもあり、構文や話の流れの把握に手間取ると時間不足になる恐れがあります。過去問をしっかりと分析することが大切です。

東京医科大医学部対策 数学

計算が面倒な問題もあるため、時間配分には十分注意することが必要。頻出項目は微・積分法、重要項目は極限、2 次曲線。全般的に基本的な事項をベースに作成されているため、各分野の基礎的な内容は確実に理解を深めておくことが大切です。例年、思考力の問われる問題や、やや複雑な式の計算を必要とする問題が出題されるため、数多くの問題練習が必要です。試験時間のわりに出題量が多いので、過去問対策でパターンの決まった問題や頻出問題をチェックして、1 問でも多く解答できるようにしましょう。

東京医科大医学部対策 化学

文章の正誤を判断させる問題は、すべて正文の場合もあるのが特徴。各分野から出題されるが、理論分野の比重が大きいです。2011 年度は化学反応式が書けないと答えにくい問題も増加しました。

東京医科大医学部対策 物理

例年、力学、熱力学、電磁気、波動、原子のほぼすべての分野から出題。中でも力学の占める割合が高い。すべて数値計算が出題されており、有効数字を考慮しなければなりません。公式などの丸暗記では対応できず、数値計算も複雑なものが多いので、時間不足になりがち。しっかり対策しておく必要があります。問題をみたら「あの公式を適用できる」と直感できるように、普段から基本問題の練習を積み重ねておきましょう。とにかく計算ミスをしないうに。

東京医科大医学部対策 生物

全問マークシートの選択式だが、選択肢にはかなり細かい点まで記述があり、簡単には答えられないものが多いのが特徴。大問中 1 題が総合問題であるのは近年の傾向で、遺伝分野の出題は毎年のように続いています。動物の反応（反応・調節）からの出題も多いです。知識問題と考察問題の両方があり、どちらもかなり高度なものが要求されるため、対策は必須。かなり細かいところや深い内容まで出題されているので、通り一遍の勉強では不十分で、基礎事項の徹底した理解が必要。テキストを丁寧に読み、図や表、脚注にも注意を払って勉強しましょう。